2022 年度終了　東京都立大学教育改革推進事業
（【A】組織提案型支援プログラム）取組

１　取組名称

専門教育の高度化・高度専門教育への接続と学生の能動的学修・キャリアプラン構築支援

２　取組組織名

法学部

３　取組実施代表者名

法学部　法学科　教授　星 周一郎

４　取組年度期間

2020～2022 年度（３年間）

５　取組の概要

法学部の教育の特色は、専門分野の基礎知識や体系的な諸理論を学ぶ講義科目と、学生の主体性が発揮される専門演習が、車の両輪の働きをなすよう配置されている点にある。講義科目と専門演習の内容を踏まえ、法律・政治にかかわる現代的課題を解決するための“考える力”をさらに向上させるためには、最先端の学術的成果や実務とのかかわりを明確に位置付け、学生の能動的学修をより自覚的に促すと同時に、キャリアプランとの関係を意識した実践的な法律学・政治学教育が不可欠である。本事業では、講義の規模に応じた STA・TA の効果的な活用と、研究の最先端で活躍する海外の研究者を招聘し高度な学術的成果や実務との接続を意識した取組を展開することを目指す。

６　事後評価の総合評定

２．６　※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った５段階評価（５～１）の平均点

７　事後評価に関する審査会での主な意見

○コロナ禍において、当初の計画通りに事業が進められなかった点は不可抗力の面もあり、その中において実施可能性のある事業に取り組んだという点では評価できる。とくに計画時点ではなかった「地域交流型ワークショップ・セミナー」の開催については、学生の能動的学習面において一定の成果を上げているように感じられるので、今後の継続的な取り組みが期待される。

○地域交流型ワークショップ・セミナーは、多摩ニュータウンで活躍する若い世代のまちづくり活動との連携という観点から、本学の理念に叶う教育活動として極めて高く評価

できる。

○コロナ禍によって、当初の計画は実現しなかったが、予定されていた海外研究者の招聘は、オンラインでの実施へと切り替えて実現させた。能動的学修を促進するために、地域交流型ワークショップ・セミナーを企画・開催して、多くの学生の参加と高い学修成果を得ている。